

# ご本人の思いと環境のバランス

リハ専門相談は「地域の支援者を支援する二次支援機関」として、地域の支援者から電話等でいただいたリハビリテーションに関する相談に対して、内容に応じて助言・訪問等を行うことで、総合相談・情報提供・技術支援を行っています。その窓口はソーシャルワーカーになりますが、今回は相談を受ける中で留意していることをお伝えします。

そもそもリハビリテーションは、疾病や怪我、加齢等によって今まで出来ていたことが出来なくなった方に、その人らしく希望した生活が具現化できるようにお手伝いすることです。そこには、残存している機能を十分に発揮していただく手法と、本人が過ごしやすい状態に環境（本人に関わる人やモノ）を合わせていく手法があります。ご本人たちの多くは自分自身が努力することで自立（Independent）した生活を望む方が多いのですが、実は私たち自身もすべてが自立しているわけではなく、どこかで他者から支えられることで自律（Autonomy）した生活を営んでいる側面もあります。1960年代アメリカのIL運動での有名な言葉に「人の助けを借りて15分で衣服を着て仕事に出かけられる人間は、自分で服を着るのに2時間かかるために家にいるほかない人間より自立している（エドワード・ロバーツ）」とあります。これは、自立（他者に頼らず自分で頑張る）だけではなく、自律（誰かから支えてもらう）を上手に組み合わせることで自己実現できることが増えていく可能性を述べていると思います。しかし、実際に支援をしていると、ご本人がこのような「自立と自律の組み合わせ」という思いに辿り着くまでには様々な体験を経ることが必要となり、年単位の時間を要します。その間に、家族や支援者が焦ったり先走ったりせずに、ご本人が様々な経験を積む中で納得して自律の必要性を実感できるように、共に伴走していくことが肝要だと考えています。

そのようにご本人の思いに寄り添いつつ、日々の生活を支えていく家族・支援者（人的環境）とともに、モノ（物的環境）についても多くの種類があります。家具等の活用・配置換えといった生活環境の工夫、車いすや上下肢装具のように身体機能を補完・代替し長期間にわたり継続利用する補装具、リフターや情報・通信支援用具といった日常生活上の困難を改善し自立や社会参加を促進する日常生活用具や、住宅改修等があります。どこまでご本人の機能を活用することで対応することが出来て、どこからは人的・物的環境で支えていくのか…そのバランスについて、ご本人の思いや考えを中心としつつ、家族や支援者の意見も取り入れながら、（将来も見据えつつ）現時点で考えられる選択肢を提示していくことが、私たちの役割となります。

（瀧澤 学）